

第4期第3回高圧ガス規格委員会 議事録

1. 日 時：平成29年7月3日（月）13：30～15：30
2. 場 所：高圧ガス保安協会 第3、第4会議室
3. 出席者：（敬称略・順不同）
 - 委員 長：木村
 - 委 員：大谷、土橋、堀口、岡野、城戸、高島、渡辺、加藤、天野、栗田、梶野、久保田（代理）、井上（代理）
 - オブザーバー：野田、肥後（経済産業省）、吉田、今岸（一般財団法人石油エネルギー技術センター）
 - K H K：杉浦、及川、小山田、加藤、木村、藤井、岸川、小川、井口
4. 配付資料
 - 資料1 高圧ガス規格委員会名簿
 - 資料2 第4期第2回高圧ガス規格委員会 議事録（案）
 - 資料3 高圧ガス規格委員会 技術基準整備3ヶ年計画（平成29～31年度）（案）
 - 資料4 保安検査基準（KHKS 0850 シリーズ）及び定期自主検査指針（KHKS 1850 シリーズ）の改正の進捗状況について
 - 資料5 KLK 解散に伴う共同規格（KHK/CLK S 0850-7 及び KHK/CLK S 1850-7）の単独規格（KHKS）化について（案）
 - 資料6 KHK/JOGMEC S 0850-8 保安検査基準（液化石油ガス岩盤備蓄基地関係）及び KHK/JOGMEC S 1850-8 定期自主検査指針（液化石油ガス岩盤備蓄基地関係）の定期見直しについて（案）
 - 資料7 コールド・エバポレータ保安検査基準検討分科会の進捗状況について
 - 資料8 （一財）石油エネルギー技術センター（JPEC）との共同規格化及び圧縮水素スタンド保安検査基準等検討分科会の設置等（案）
 - 資料9 水素スタンドの概要
 - 資料10 JPEC 保安検査基準案等の審議状況の概要
 - 資料11 超臨界流体抽出装置及び超臨界流体クロマトグラフの運用基準検討分科会の進捗状況について
 - 資料12 リスクアセスメント・ガイドラインの技術基準（KHKTD）化及びリスクアセスメント基準検討分科会（仮）の設置について（案）
 - 資料13 リスクアセスメント・ガイドライン（Ver.2）
 - 資料14 ASME Delegate 活動報告
 - 参考資料 高圧ガス保安協会 規格委員会規程 抜粋
5. 挨拶等
 - 開会に当たり、高圧ガス保安協会 杉浦理事より挨拶があった後、事務局より定足数の報告があり、委員数18名に対し、委員出席14名（委員代理者を含む。）で定足数（委員数の過半数以上）を満足している旨があった。

また、前回委員会以降に交代のあった委員の紹介があった。

【退任された委員】

金井委員（JX エネルギー株式会社（現 JXTG エネルギー株式会社））

齋藤委員（三菱化学株式会社（現 三菱ケミカル株式会社））

【就任された委員】

城戸委員（JXTG エネルギー株式会社）

高島委員（三菱ケミカル株式会社）

6. 配付資料の確認

事務局から配付資料の確認があった。

7. 議事概要

7.1 議案(1) 前回議事録(案)の確認

資料 2 について事務局より説明があった後、資料 2 を正式な議事録として承認するための採決が挙手により行われ、出席委員全員(14 名)の賛成により、正式な議事録として可決された。

7.2 議案(2) 保安検査基準（KHKS 0850）及び定期自主検査指針（KHKS 1850）関係

7.2.1 議案(2)① 保安検査基準（KHKS 0850 シリーズ）及び定期自主検査指針（KHKS 1850 シリーズ）の改正の進捗状況について

資料 4 について報告があった。質疑は無かった。

7.2.2 議案(2)② KHK 解散に伴う共同規格（KHK/KLK S 0850-7、KHK/KLK S 1850-7）の単独規格（KHKS）化について

事務局より、資料 5 について説明があった。主な質疑は以下の通り。

（委員）パブリックコメントの廃止と制定を同時に行うことは出来ないのではないかと。

（事務局）全く別の規格として廃止と制定を行うので、同時並行も可能である。

以上の質疑があった後、資料 5 の 5. 審議事項の採決が挙手により行われ、出席委員全員（14 名）の賛成により可決された。

7.2.3 議案(2)③ KHK/JOGMEC S 0850-8 保安検査基準（液化石油ガス岩盤備蓄基地関係）及び KHK/JOGMEC S 1850-8 定期自主検査指針（液化石油ガス岩盤備蓄基地関係）の定期見直しについて

事務局より、資料 6 について説明があった後、資料 6 の 5. 審議事項の採決が挙手により行われ、出席委員全員（14 名）の賛成により可決された。質疑は無かった。

7.2.4 議案(2)④ コールド・エバポレータ保安検査基準検討分科会の進捗状況について

事務局より、資料 7 について報告があった。質疑は無かった。

7.2.5 議案(2)⑤ 圧縮水素スタンド保安検査基準及び定期自主検査指針について

事務局より、資料 8 について説明があった後、一般財団法人石油エネルギー技術センターより資料 9 及び資料 10 の説明があった。その後、資料 8 の 3. 審議事項の採決が挙手により行われ、出席委員全員（14 名）の賛成により可決された。質疑は無かった。

7.3 議案(3) 超臨界流体抽出装置及び超臨界流体クロマトグラフの運用基準検討分科会の進捗状況について

事務局より、資料 11 について報告があった。質疑は無かった。

7.4 議案(4) リスクアセスメント・ガイドラインの技術基準化について

事務局より、資料 12 及び資料 13 について説明があった後、以下の質疑応答があった。

(委員) KHKTD には KHKS 0850 のような番号が付かないのか。

(事務局) 番号は KHKS と同様に付くこととなる。

(委員) 今回、KHKTD で発行するリスクアセスメント・ガイドラインは、化学プロセスや反応プロセス等を扱っている事業所の方に対するガイドラインなのか、それとも高圧ガス保安法が適用される事業所全体に適用されるようなものになるのか。

(事務局) 委託事業でまとめたガイドラインは、反応等を伴うプロセス中の非定常時における事故に対してまとめたので、高圧ガス全体をカバーするような内容には至っていない。従って、今回、KHKTD とする範囲としては、主に化学反応プロセスを行う事業者を対象として出すこととなる。

(委員) 将来的に規格化していくことを検討するという理解で良いか。

(事務局) 規格化するには、定常リスクアセスメントの内容が不十分であるので、業界のニーズ等を踏まえて、規格化を考えたい。

以上のような質疑応答があった後、資料 12 の 5. 審議事項の採決が挙手により行われ、出席委員全員（14 名）の賛成により可決された。

7.5 議案(5) ASME Delegate 活動報告

事務局より、資料 14 について報告があった後、以下の質疑応答があった。

(委員) 資料 14 中の設計係数というのは、いわゆる安全率ということで良いか。

(事務局) おっしゃるとおりである。

7.6 議案(6) 技術基準整備 3 ヶ年計画（平成 29～31 年度）について

事務局より資料 3 について説明があり、資料 3 を高圧ガス規格委員会の技術基準整備 3 ヶ年計画（平成 29～31 年度）とすることの採決が挙手により行われ、出席委員全員（14 名）の賛成により可決された。質疑は無かった。

8. その他

次回委員会については、分科会後の進捗状況や技術基準の制定、改正の進捗状況を踏まえて開催することとなった。

以上